

第20回

はがき歌

全国コンテスト

子規が親しんだ
短歌形式の手紙



正岡子規が日常の出来事を短歌形式ではがきなどに書き、友人に送ったのが始まりといわれている「はがき歌」。今回は「四国霊場開創1200年」を記念し、特別部門「四国遍路」を設けました。応募総数1万330通が寄せられ、入選10点、「四国遍路」賞28点、佳作101点が、3月21日に子規記念博物館で表彰されました。入選作品と市内在住の人の佳作19作品・「四国遍路」賞2作品を紹介し

ます。(敬称略)

松山市長賞

二歳の駆君へ

鉄棒に
初めてひとり
ぶらんぶらん
芋虫みたいな
影も揺れてる

山口県山口市

稲田 和子

愛媛県知事賞

子規さんへ

秋の陽が
ペン先ゆらゆら
遊ぶから
何か名文
生まれそうで

松山市

荒木 恵子

松山市教育長賞

友へ

まだつかぬ
花火持つ手が
ふるえてる
これは恋かと
心ゆらめく

済美平成中等教育学校

松影 雛

受賞者の声

恥ずかしいので、あまり詳しくは言えませんが、夏に異性の友達と線香花火をした時に湧きあがった心の起伏を詠んだ作品です。賞をくださった、ありがとうございます。



松影 ひなさん

受賞者の声

お遍路さんにあいまいな道案内をしてしまい、かえって迷ってしまったんじゃないかなと心配になりました。無事にたどり着いてほしいという思いをはがき歌にしました。



松田 花奈さん

審査員特別賞

審査員(敬称略)

坪内 稔典 審査委員長
(俳人・佛教大学教授)
永田 紅(歌人)
吉田 類(酒場詩人)
尾形 牙子(松山歌人会会長)
竹田 美喜(子規記念博物館館長)

認知症になった母へ

「どちらさま」
目は真剣で
清らかで
「はじめまして」と
つい口に出た

山形県鶴岡市

佐藤 文子

村の青年へ

耕運機
止めて聴きをり
遠嘶子
青年何度も
口太鼓打つ

神奈川県厚木市

多田 武峰

佳作(市内在住の人)

せんぶうきへ

せんぶうき
ぼくのほうだけむいてね。
くびりなんて
しなくていいよ。

長尾 悠生

おじいちゃんへ

おじいちゃんりはびり
ぼちぼちがんなばって
ぼくもべんきょう
がんばるぼちぼち

矢野 圭悟

北条のじいちゃんへ

じいちゃんの
畑でとれた夏野菜
ゴーヤは苦手
きゅうり大好き

酒井 歩

お母さんへ

遠征でお祝いでできない
たん生日
おめでとかがわりの
タイムリーヒット

樋口 裕太郎

おばあちゃんへ

夏休み
ふるさと帰り
すいかたべ
外で遊んで黒くなったよ

朝日 慎好

教室のめだかさんへ

かわいいね
せまいところでも泳いでる
小さいひれで
いつもすいすい

上久保 響花

おかあさんへ

国家しけん
合格発表おめでとう
ぴよんぴよんはねる
うさぎのようだ

種岡 優斗

天国のパパへ

夜空にね
星見上げた顔うかぶ
とびつきたいな
大好きなパパ

石村 知緋路

単身お父さんへ

月一回花丸つけた日
父さん帰る
お風呂で交わす
一ヶ月分の会話

清水 多聞

けんかや殴り合いに

滅法強い妹へ
もうちょっと
けりやパンチを弱めろや
少しは兄の気持ち察しろ

仲田 淳之介

濱田先生へ

もう少し
筆圧弱くしてほしいな
黒板消す時
大変だから。

寺尾 年弘

謝りたい人へ

さらりと
流した過去が
ざらりと
濁点連れて戻っています

山本 久美子

退職した夫へ

重かったスーツは
軽くなったけど
ブラシを掛けて
おきましようね。

木藤 ひとみ

一切を忘れた母へ

はりはりと
朝の白菜剥いてます
きのうあなたを
抱きしめた手で

半木 るん

坊っちゃん列車へ

ポッポーと
あなたが走るわが街で
孫と手をふり
暮しています

造田 フクエ

夫婦へ

恥らいて名前呼び合う
日もあった、
愛とは不思議
空気に変わる。

北川 アイ子

自分へ

小心で几帳面過ぎて
きれいな好き
そこに惚れたと
真顔で妻が

北川 正治

ぼちぼちしてや

ぼちぼちしてや
ぼちぼちは体小さく
手は太く小さな鉄で
太かあ畑へ

山田 啓介

亡夫へ

想い出のアルバム
あなた素敵です
隣りのわたし
可愛いでしょう

堤 ムツコ

お問い合わせは、教

子規記念博物館 ☎9315
566・☎93416へ

「四国遍路」大賞

お遍路さんへ

おへんろさん、
おつかれさまあ、
と声かけて
蜻蛉のなかを
駆けてゆく子ら

愛知県津島市

相原 利沙

「四国遍路」賞(市内在住の人)

おためきさんへ

またですか
行きつ戻りつ
五巡目も
三十四番種間寺さま

高市 順子

私自身へ

伊予の湯の
厠の下駄の向きかえて
掌を合わし去る
出羽の子遍路

西山 隆